



大類 奈保子氏
舟形第3
(47歳)

任期は
平成30年4月1日より
平成34年3月31日まで

舟形町教育委員会委員の
任命に同意



庄司 雅人氏
天童市
(51歳)

平成30年4月1日より就任

舟形町副町長の選任に同意

開かれた議会を目指して 第10回議会報告会を開催しました

4月11日(水)・12日(木)



沖の原町内会



経壇原町内会



紫山町内会



内山町内会

このたび、舟形町議会では第10回となる議会報告会を町内4か所(内山・経壇原・紫山・沖の原)で開催しました。議会報告会の目的は、議会活動などの報告と町政に関する情報提供を行い、議会活動に対する意見などを直接お聴きして、議会の活性化に努め、住民の皆さんに信頼されるまちづくりを実現しようとするものです。参加いただきました町民の皆様、貴重なご意見ありがとうございました。詳しい内容は、議会だより7月号で報告します。



開校築35年になる舟形中学校

【質問】 舟形中学校は校舎建築から今年で35年になります。鉄筋コンクリート造りの法定耐用年数は、学校や体育館等については47年となっています。国土交通省大臣官房官庁営繕室監修文庫では、

【町長】 舟形中学校は、昭

修繕周期はおおよそ5年から20年、更新周期は約20年から30年ほどになっています。山形県県有建物長寿命化指針では、新築から30年前後においては大規模改修工事の実施を検討すると記述しています。現在の中学校用地は土砂災害土石流危険区域に指定されており、生徒や教職員が安全で安心できる教育環境の整備が必要と考えます。また、舟形町教育方針で保育所、小学校、中学校の近接型一貫教育の推進を掲げているのであれば、なおさら建築後35年も経過しているので移転すべきと思いますが、町長の考えを伺います。

和56年5月改正の基準で建築された鉄筋コンクリート造の校舎、体育館であり、ご指摘のように35年になります。山形県県有建物長寿命化指針では、新築から30年前後の大規模改修工事を検討すると記述されていますが、学校施設だけではなく、県民または職員が常時利用する施設で、延床面積200㎡を超える建物が対象施設となっているようです。

このようなことも踏まえ、中学校は建築後の教育環境確保のため、維持修繕を行なっています。平成28年3月定例会予算審査特別委員会で、中学校の今後については大規模改修にするか移転するか、5年以内の方針を定めたいと教育委員会と



土砂災害土石流危険区域に指定されている校舎

して発言していますが、その後、平成28年5月の総合教育会議において、教育委員会が進めている保小中一貫教育推進のため、より近い環境にある「近接型一貫推進体制」が最も望ましいと考え、また地勢的な課題も踏まえ、「維持修繕を図りながら、近接型の移転を検討していく」ことを確認しています。今後、町の厳しい財政状況、地域住民や保護者の理解などを総合的に勘案し、中学校移転等について検討していきます。



伊藤 欽一 議員

舟形中学校は大規模改修か移転かを問う

総合的に勘案し移転を検討する